

## ★サミットの大勝利者＝中国はどうやって一番得をしたのか

米国の2人の中国専門家、ボニー・フレイザー（国際戦略研究所主任研究員）とオリアナ・マストロ（ジョージタウン大学准教授）が、米朝首脳会談に果たした中国の役割について論じています。以下は6月15日の「フォーリン・アフェアーズ」（電子版）に掲載された論文の概要です。

米朝首脳会談では見えないプレーヤーが勝者となった。中国である。中国の対北朝鮮政策は主として、地域の米国パワーに対抗して朝鮮半島での影響力をなんとかして増大させたいという願望に突き動かされている。この線にそって、中国は2つの目標をもっていたが、それがシンガポールで実現した。

第一の目標は、半島での双方による段階的な縮小で、北朝鮮によるすべての核関連計画の実験停止と引き換えに半島での軍事演習を中止するという「凍結対凍結」の方式だ。昨年9月、米国はこの方式を拒否した。ハーレー米国連大使は、それを「侮辱的」とよび、合法的な米韓同盟の活動を危険でならずもののような北朝鮮の行動とを同等に扱うようなことはあってはならないと強調した。中国はもちろん、この方式の意図を北朝鮮に説明した。さる3月だ。韓国の鄭義溶・国家安保室長によると、北朝鮮は中国方式を気につけないわけにはいかなかった。鄭氏は訪米中にトランプ大統領に、金委員長が「米韓合同演習に理解を示した」と伝えた。金委員長は翌月、見返りなしに核実験とミサイル実験の一方向的な停止を宣言した。

それから5月、北朝鮮は突然回れ右をして、計画されていた韓国との会談を中止した。米韓演習を理由にした。金委員長の心変わりには、その前の週に大連であった習近平主席との会談によるものらしい。習主席はたぶん、金委員長にたいし、シンガポールでの会談で米側に米韓演習をやめさせるようベストをつくせと力説したのだろう。12日の米朝首脳会談後、トランプ大統領は軍事演習を無期限に中止すると宣言した。韓国と日本と同様、ペンタゴンにとっても驚きだった。多くの専門家が米韓関係に影響を与えかねない譲歩だと心配している。当然だ。米側はその見返りに、あいまいな非核化の約束しかえていない。トランプ大統領が問題の交渉を快諾したことで、米軍の役割は地域の平和と安全のためだという主張の根拠が揺らいでしまった。大統領は演習が「挑発的」で「不適切」だといった。この朱の言葉は中国の宣言機関が使うもので、多数の戦線でも中国側に勝利を与えた。さらに大統領の決定は、米日韓の同盟を弱体化させるということ。この同盟こそ地域への米国のパワーと影響力を投射する能力のカギなのだ。中国はいまや東シナ海と同様に南シナ海でも米国の活動を押し戻す糧を得た。しかしそれ以上に、在韓米軍をいつかは撤退させたいという大統領の発言ほど中国を驚かせ、また喜ばせたものはない。もし実際に在韓米軍の削減か撤退に動くようなことがあれば、それこそ中国にとってこの上ない大勝利である。

中国の2つ目の目標は、朝鮮戦争を正式に終結させる平和協定の議論に中国が確実に参加することである。4月27日の南北首脳会談で韓国の文大統領と金委員長は、平和協定の交渉推進で合意した。この時、シンガポールでの米朝首脳会談で休戦協定を平和協定に置き換える議論が始まるのではとの憶測が生まれた。これは米国にとって大きなステップで、米国は、北朝鮮が核ミサイルや人権問題、テロ活動の問題を解決しないかぎり、提案を受け入れないといってきた。一方、中国は協定を作ることに賛成だった。平和協定ができれば、米韓による武力行使は難しくなり、在韓米軍の撤退に道をひらくからだ。米朝会談の準備過程で中国には、平和協定の話合いから排除されるのを心配する兆候がみられた。政府系の「環球時報」は6月4日の論説欄で、米朝両国だけが調印する平和協定は無効であり、そうなれば覆される可能性がある」と強調した。南北会談で両者が、恒久的な平和条約は南北米の三者でも、それに中国を加えた4者でも、どちらでも推進すると表明したことに中国は懸念がかきたてられたようだ。習近平はたぶん、この後、中国を抜きにするのはとんでもないといったのだろう。

中国は重ねて望みを果たした。シンガポールの共同声明で米朝首脳は、「朝鮮半島での永続的かつ安定的な平和体制の構築に共同で努力する」と誓い、トランプ大統領は記者会見で、どんな平和交渉にも中国と韓国両方が含まれなければならないと指摘した。中国外務省はこの提案を支持して「中国はすべての関係国と手を携えて半島の非核化の実現と平和体制の構築にコミットしていく」と述べた。中国がサミットから望むものすべてを得たのは偶然ではない。

トランプ大統領が金委員長との会談の意思を表明して事態が急展開した際、中国には危険とチャンス両方があった。半島の情勢変化によって、中国が軽視される危険があった。しかし歴史の進路を自国に有利な方向に誘導する好機でもあった。習近平はこの機会を捉え、北朝鮮にたいする中国の影響力を使った。多くの人は、それはとうの昔に失われたと考えていたが、いまや明らかだ。中国にとって3月の中朝首脳会談の究極目的は、きたるべき米朝首脳会談の方向を決め、どんな結果になっても確実に米国より中国に有利なものにすることだったのである。首脳会談がそうなるように中国が巧みに調整をした十分な形跡がある。

米国にとって不幸なことは、中国の外交的な才覚の効果が北朝鮮をはるかに超えて広まることである。大国間ゲームで中国は米国にたいして多くの得点を稼いだ。もし中国がこのまま北朝鮮問題をテコに使うと同盟を急速に弱体化させ、軍事展開と活動を減少させ、地域における米国の役割の合法性の基礎を掘り崩すことができれば、アジア太平洋の米国は試合終了だ。（了）